

1. 件名：火山活動のモニタリング評価結果（2020年度報告）に関する面談

2. 日時：令和3年6月30日(水) 9時55分～12時10分

3. 場所：原子力規制庁9階会議室

4. 出席者（※：テレビ会議システムによる出席）

原子力規制庁 原子力規制部 地震・津波審査部門

佐藤（秀）主任安全審査官、熊谷管理官補佐、西来技術研究調査官

九州電力株式会社 テクニカルソリューション統括本部

赤司土木建築本部部長 他4名※

5. 要旨

（1）原子力規制庁から、九州電力株式会社より本年6月16日に提出された「川内原子力発電所及び玄海原子力発電所 火山活動のモニタリング評価結果（2020年度報告）」、本日提出された「第三者（火山専門家）のコメント」及び「火山モニタリング評価に対する助言と2020年度の対応内容について」に関して、以下の記載事項について確認を行った。

- ① 監視対象火山としている5つのカルデラの2020年度の活動状況はどうだったのか。
- ② 2020年度報告に対して、第三者（火山専門家）からの助言は、どのような内容だったのか。
- ③ 原子炉安全専門審査会原子炉火山部会第9回会合（令和2年10月20日開催）で委員から指摘された事項について、2020年度報告でどのように反映したのか。
 - ・ 始良カルデラ周辺の水準測量結果に関する長期的な地殻変動に関する解釈及び測地データとして一番長期間のデータが揃う京都大学等のデータを含めた検討について。
 - ・ GNSSの基線長や地震活動の増減などの定量的評価について。
- ④ 第三者（火山専門家）からの助言に基づいて2019年度報告から追加されたデータについて。
- ⑤ 九州電力株式会社設置のGNSSデータの統合解析に向けた国土地理院との調整について。

(2) 九州電力株式会社から、原子力規制庁からの確認事項について、以下の通り説明があった。

- ① 公的機関による発表情報、既存観測網によるデータ等を収集・分析し、2020年度の対象火山活動状況を確認した。その結果、各カルデラ火山において、顕著なマグマ供給率の増加を示唆する地殻変動及び地震活動の有意な変化は認められないことから、対象火山の活動状況に変化はないと評価した。
- ② 第三者からのコメントについては、提出資料に記載の通りである。いずれの専門家からも、「カルデラ火山の活動状況に変化はないという評価で問題ない。」との助言を受けている。
- ③ 2020年度報告における反映箇所は、以下のとおりである。
 - ・ P138：京都大学の水準測量結果に自社の水準測量結果を追記し、1990年代以降、山頂噴火活動の静穏化に伴って隆起している傾向が継続していることを確認した。
 - ・ P167～P184：GNSSの基線長変化や地震活動の増減について、定量的な評価を行うに当たり、今回新たに統計的整理に基づく評価を試みた。基線長変化については、2000年以降の平均変動率とそのばらつきを整理し、2020年との比較を実施した。地震活動については、2000年以降の地震数、地震エネルギーをグリッド毎に平均とそのばらつきを整理し、2020年との比較を実施した。
- ④ 従前の基線長に直交する基線をモニタリング対象に追加した。また、カルデラ火山周辺のひずみ場検討において面積ひずみを色調で表現した。
- ⑤ 国土地理院とGNSS統合解析に関する手続きを進めており、次年度より統合解析結果が報告できる見込みである。

6. 提出資料

- ・ 資料1 第三者（火山専門家）のコメント
- ・ 資料2 火山モニタリング評価に対する助言と2020年度の対応内容について

7. 既提出資料（令和3年6月16日受領）

- ・ 川内原子力発電所及び玄海原子力発電所火山活動のモニタリング評価結果について（報告）その1 <https://www.nsr.go.jp/data/000356072.pdf>
- ・ 川内原子力発電所及び玄海原子力発電所火山活動のモニタリング評価結果につ

いて（報告）その2 <https://www.nsr.go.jp/data/000356071.pdf>

- ・ 川内原子力発電所及び玄海原子力発電所火山活動のモニタリング評価結果について（報告）その3 <https://www.nsr.go.jp/data/000356070.pdf>